

木	1	友引
金	2	先負
土	3	仏滅 定休日
日	4	大安 休日営業16時まで
月	5	赤口
火	6	先勝
水	7	友引・立冬
木	8	仏滅
金	9	大安
土	10	赤口 時雨茶会・総集市
日	11	先勝 時雨茶会・総集市
月	12	友引
火	13	先負
水	14	仏滅
木	15	大安
金	16	赤口
土	17	先勝
日	18	友引 定休日
月	19	先負
火	20	仏滅
水	21	大安
木	22	赤口・小雪
金	23	先勝・勤労感謝の日 定休日
土	24	友引
日	25	先負 休日営業16時まで
月	26	仏滅
火	27	大安
水	28	赤口
木	29	先勝
金	30	友引

桂窯 檜垣良多 プチ作陶展

朱釉黒茶碗 ¥197,000
 鉛茶碗 ¥187,000
 黒流茶碗 ¥197,000

昭和51年 檜垣青子の長男、初代寄神崇白の曾孫として生れる青子・二代崇白のもと陶技を学ぶ
 平成12年 京都府立陶工訓練校成形科修了
 平成13年 京都市立工業試験場窯業科修了
 平成20年 裏千家学園卒業
 平成22年 イタリア フィレンツェにて制作
 平成24年 京都府京もの認定工芸士に認定
 現在、檜垣青子・寄神崇白とともに桂窯にて作陶

遠州七窯 膳所焼 プチ作陶展



膳所焼は、江戸時代初期の茶人で武將であった小堀遠州政一(1579-1647)の指導により、

好みの茶陶を焼造した遠州七窯の一つとされてきた。しかし近年の研究から、膳所焼の前史には勢田焼と呼ばれたものがあり、それに続く膳所焼には国分窯・大江窯などの窯があり、また幕末、この地域に興された梅林焼(唐三彩風の緑や黄色など鮮やかな発色の釉薬が特色)や雀ヶ谷焼(実用品が主)、さらに大正8年(1919)に再興された復興膳所焼などを含む諸窯の総称と考えるようになっていく。その歴史は、元和年間(1615-24)の記録や茶会記などに、勢田焼の名が登場するのに始まる。寛永年間の膳所藩主 石川忠総の時代に藩窯として当時茶道具として注目された茶壺や茶入、水指などの茶陶が作られていた。しかし藩主の国替えにより藩窯としての膳所焼は短命に終わった。大正8年、膳所の人岩崎健三、名窯の廃絶を惜しみ山元春拳画伯とはかり、その再興に生涯をかけ途中非常な努力を以て経営維持につとめ、茶器製作に於いては遠州七窯の一つとして恥ずかしくならぬものとなり続いて健三の長男、新定その業をつぎ、今日では陶磁器業界はもとより茶道界にても膳所窯は著名な存在になっている。現在は津市中庄に工房と窯があり庭内には名勝、陽炎の池が昔の姿を残している。-膳所焼美術館HP-

写真① 重要文化財 蘆花浅水荘 ろかせんすいそう 山本春拳画伯の別荘。春拳の師 森寛斎と父母の霊を祀り「記念堂」とも称す 写真② 膳所焼工房にある春拳の額

本阿弥光悦と膳所焼

膳所焼は、1634年膳所藩主となった石川忠総の時に隆盛をむかえた。忠総は小堀遠州と親交が深く、本阿弥光悦・松花堂昭葉に影響を受け茶器作陶に力を注いだ。遠州七窯の一つとして評判を上げた//////寛永13年(1636)三代將軍家光が、あらたに造営した品川御殿山御成に際し、小堀遠州は当時著名な本阿弥光悦に茶碗の新作を依頼した。光悦は遠州が樂茶碗を好まないのを推して、膳所の土を用いて焼きあげたといわれる。この茶碗 写真③は、同献茶の控え二碗のうちのひとつとされるが、他方すべて褐色釉で覆われるつくりの茶碗と大きく異なり、白土に茶褐色が帳幕を絞ったように流れた意匠が施されている。比較的腰づくりは厚く、口縁部分に向かって薄くつくられ、口造りにも自然な趣がある。光悦樂茶碗の「おとごぜ」に似て高台はきわめて低い。-茶の湯美術館 角川書房-

光悦茶碗「おとごぜ」乙御前 平瀬家⇒名古屋森川如春庵 -大正名器鑑より-

形状丸く高台低く三平二滴(額・鼻・下あごが平らで両頬がふくらんでいる)の姿、御多福に似たるを以て、此銘を得たるならん。光悦作中 意匠最も奇抜なる茶碗なり。光悦の代表作には国宝・白樂茶碗「不二山」、重要文化財・黒樂茶碗「雨雲」「時雨」、赤樂茶碗「雪峯」「加賀光悦」「乙御前」がある。また同じ銘に長次郎黒茶碗「乙御前」永青文庫蔵がある。光悦 乙御前茶碗 個人蔵

古来、膳所焼は「黒味をおびた鉄釉の美しさ」と称された **今月の推奨商品のご紹介 華乃会お買得価格でのご紹介 陽炎園膳所焼特集**

雪月花茶碗 ¥62,000
 掛山蔦茶碗 ¥50,000
 乾山写菊茶碗 ¥60,000
 乾山写雪松茶碗 ¥64,000
 膳所陽炎園 一重口水指 淡々斎箱 ¥180,000

霜月 催事のご案内

茶道具総集市 11/10 11日 土 日

時雨茶会

月刊 いつもの ギャラリー さん (題字・三輪休和) 109号 2018年11月発行

十一月より華乃会会員様 お誕生日月のお買得商品コーナーを設けました 十一月のお誕生日のお客様 どうぞお楽しみに



膳所城は、琵琶湖に突き出した土地に築かれた水城であり、日本三大湖城の一つ。大津城、坂本城、瀬田城と並ぶ「琵琶湖の浮城」の一つである水面に映える姿は里謡に「瀬田の唐橋からねぎぼし、水に浮かぶは膳所の城」と謡われていた。

写真① 蘆花浅水荘 写真② 膳所焼をいひつ焼と称した 写真③ 膳所茶碗 MOA美術館蔵 もう一碗の膳所茶碗

写真③ 膳所茶碗 MOA美術館蔵 もう一碗の膳所茶碗

11月12月号は各地の紅葉を紹介させていただきます

常寂光寺仁王門の紅葉 photo by S.A

編集の窓

今ひとたびのみゆきまたなむ 拾遺和歌集 藤原忠平

常寂光寺 京都嵯峨野にある日蓮宗本國寺派の寺院。百人一首で詠まれる小倉山の中腹の斜面にあって境内には約二百本も植えられた紅葉に包まれた。その常寂光土のような風情からこの寺号がつけられたとされる。『小倉百人一首』の中に詠まれている和歌の中に宇多法皇が嵯峨へ行幸の折、紅葉の美しさに息子の醍醐天皇にも見せたいと言ったのを供の藤原忠平が宇多法皇の気持を和歌に託して詠んだものがある

今ひとたびのみゆきまたなむ 拾遺和歌集 藤原忠平

ギャラリー森田ホームページ <http://www.gallery-morita.co.jp/> gallery morita スタッフぶろぐ <http://ameblo.jp/gallerymorita/> <https://www.instagram.com/gallery.morita/> 来年のお題、干支の懐紙が揃いました! うれ坊の可愛い浮き彫りや、歌会始の『光』を題材とした懐紙です。1帖200円で何帖からでも包装、のし承ります。数に限りがあるためお早めにご注文お願い致します。

Instagram 始めました

■ご不要になりましたお道具 など どうぞお売り下さい。

月刊「ぎやらりさん」編集プロジェクト